

輸出事業計画

※申請者名：JA食肉かごしま輸出コンソーシアム、品目：牛肉

1. 輸出における現状と課題

【現 状】

- ・牛肉販路拡大のために構成員が一体となって取り組む鹿児島県畜産物輸出コンソーシアム推進対策事業等に取り組み、官民一体となってPR活動を実施しながら、邁進中である。
- ・鹿児島県産和牛は、全国和牛能力共進会（平成29年第11回大会、令和4年第12回大会）において2大会連続日本一になるなど知名度向上も図られ、「鹿児島黒牛」ブランドとして系統グループで国内外へのPRを展開し、輸出拡大を実施中である。

【課 題(共通)】

(製造)

- ・現在1種類の専用箱を使用しているため、肉製品のサイズにあった箱サイズへの見直しと輸出国に適応するバーコード管理が可能なラベル記載事項付きの箱とすることが課題である。
- ・ロイン系以外の部位についてはスライスパックの需要が見込まれるが、精肉加工施設がない。

(販売)

- ・輸出先国における日本国内の輸出比率が低い産地及び同県内メーカーとの価格競争がある。

(流通)

- ・現在1種類の輸出専用箱による積載量の無駄（一部空気を運んでいる状態）及びトラック輸送2024年問題による輸送量の制限が懸念される。

2. 輸出事業計画の取組内容

【取 組(共通)】

(製造)

- ・最低2種類の箱サイズ（専用箱）の見直しとラベル記載事項の検討を行うとともに、農林水産省と厚生労働省に輸出国別資材の数のパターン化統一についての要請を行う。
- ・食肉生産流通多角化施設整備事業を活用し、多様化する輸出需要に対応するため、HACCPに対応したパック（スライス）肉を製造する施設を新設する。

(販売)

- ・ロイン系以外部位での先駆的販売を模索する。
- ・「鹿児島黒牛」ブランドでの他ブランドとの差別化を図る活動を実施する。
具体的には、ターゲット国において、鹿児島黒牛の知名度向上を狙ったフェアを大型店舗やサイト上で実施し、香港・台湾への小売・外食におけるセカンダリーカット（冷凍品）を活用した無償サンプル（アンケート付）提供や、米国・EUへの小売・ECにおけるセカンダリーカット（冷凍品）を活用した無償サンプル（アンケート付）提供により新規顧客開拓を実施していく。
- ・日本産和牛が未成熟な市場であるスペインや神戸ビーフ以外のブランドの認知度が低いフランスに鹿児島黒牛を広めてファンを獲得するため、スペイン大使館やフランス精肉学校でのPRも実施する。

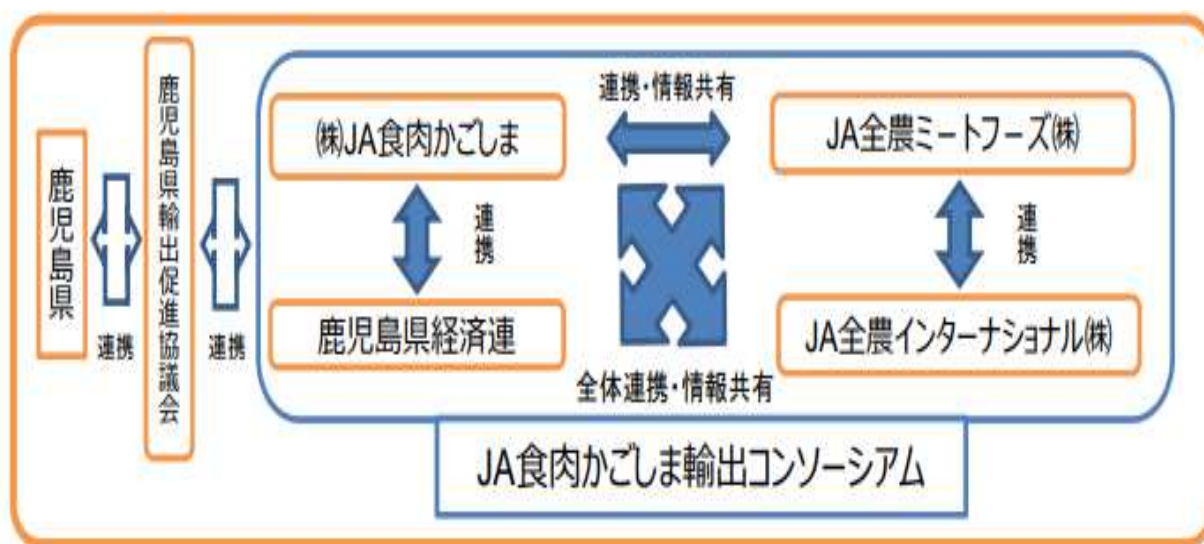
(流通)

- ・製造の箱サイズと種類別における部位別の適正容積での輸送及び大型トレーラー車への変更により輸送積載量アップを図る。

輸出事業計画

※申請者名：JA食肉かごしま輸出コンソーシアム、品目：牛肉

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状 (令和4年度)	目標年 (令和9年度)
輸出額(千円)	2,160,625	5,770,000
輸出量(トン)	236.1	961.0
輸出先国	香港・米国・台湾・EU（英国を含む）・シンガポール・オーストラリア・ニュージーランド・フィリピン・カナダ・マカオ・メキシコ・ベトナム	香港・米国・台湾・EU（英国を含む）・シンガポール・オーストラリア・ニュージーランド・フィリピン・カナダ・メキシコ・マカオ・ベトナム・タイ
生産量(トン)	7,860.8	8,450.0